

日本禁煙学会の対外活動記録 (2015年9月～11月)

- 9月 4日** アレルギー検査用試薬「タバコ煙」製造・販売再開のお願いに8月20日と9月3日に厚生労働省へ行きました。
- 9月 7日** 喫煙年齢の緩和反対声明を9月3日に送るとともに他の禁煙・禁酒関連団体とともに9月7日に厚生労働省において記者会見を行いました。
- 10月16日** JTの台南市にタバコ加工工場建設に対して、台湾董氏基金会の方々と合同で、10月9日、財務省、外務省に建設停止の申し入れをいたしました。
- 10月29日** 日本産婦人科学会「産婦人科外来診療ガイドライン」における喫煙に関する記述についての要望を要請しました。

〈編集後記〉

今年も早くも12月になりました。禁煙会誌は本来2か月に1回の発行を目指し、川根委員長の時には1年に6号を発行していました。私が編集委員長になってからは、昨年も今年も5号までで終わってしまい、反省しているところです。

4号の巻頭言では、来馬先生の茶道の世界における慣習を初めて知りました。先生の原稿を元に慣習を改める働き掛けが必要と思いました。今年の5号までの投稿は総説が1編、原著が6編、資料が4編です。やや原著の投稿が少ない傾向があります。この中で看護職会員の投稿が増えていることが目につきます。熊本にて開催されました第9回日本禁煙学会学術総会においても多くの優れた研究発表がありました。会員の皆様には、是非、論文作成をして本誌に投稿して頂きたいと願っております。なお、編集委員会で検討した結果、今年の投稿論文の中から、優秀論文を2016年3月の総会で選び、来年の東京にて開催される学術総会にて表彰することになりました。

総説および資料は大変充実していて、マーク教授、中久木会員および宮崎理事の著作は、いずれもトピックスを扱い優れた内容になっておりますので、皆様の活動にお役に立てると思われれます。また、私の所属している禁煙みやぎは、毎年「世界禁煙デー・宮城フォーラム」の報告を投稿しており、今年も5号に資料として掲載しております。会員の皆様は各地において、多くの禁煙推進活動をされておられますので、是非それらの活動報告を資料として本誌に投稿して頂ければ、各地の活動に有益と思われれます。

2016年には年間6冊の発行を目指して、編集委員一同頑張りたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。

(編集委員長 山本蒔子)

〈第10巻査読者一覧〉

日本禁煙学会雑誌第10巻の発行に際しまして、下記の方々に論文査読のご協力を賜りました。ここにお名前を挙げさせていただき、厚く御礼申し上げます。

お名前(五十音順、敬称略)

相沢政明、稲本 望、川根博司、下平秀夫、鈴木幸男、谷口千枝、土井たかし、
中田芳子、野上浩志、蓮沼 剛、長谷川純一、松崎道幸、山田修久、吉井千春